

日本農業遺産

令和3年2月認定

田野・清武地域の農業は、気候風土を活かし、年間を通じた露地畑作と「干し野菜」の技術を多角的に組み合わせたシステムとして発展してきました。冬季に「大根やぐら」が建ち並ぶ風景は、この地域ならではのランドスケープです。

伝統農法



干切り大根棚

細切りにした青首大根を西風が吹く晴天の日に干しています。大根を均等に広げることで質の高い干切り大根が出来上がります。



大根やぐら

天日と冷たい西風「郷原おろし」で1本れごとの白首大根を乾燥させています。設計図は無く、生産者の知恵や技術、経験をもとに組み立てられています。

「干し野菜」と露地畑作の高度利用システム



土地の高度利用



露地畑作

夏は葉たばこやかんしょ、冬は大根や高菜等の露地野菜の栽培を行うことで、年間を通じた土地の高度利用が実現しています。

農業生物多様性



ツバメ

農家が農業機械を保管する倉庫や納屋は、害虫駆除の一翼を担っているツバメが自由に出入りでき、営巣しやすい環境となっています。

日本農業遺産認定後の取組

農林水産業

農産物の付加価値向上

- ・田野・清武地域の農産物やそれらを加工した商品及び地域農業の認知度を高めるため、ロゴマークの使用基準を制定
- ・地域内の物産施設や各種イベントで、商品にロゴマークシールを貼付し販売

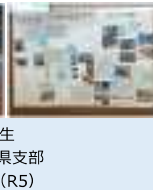


【ロゴマーク使用申請件数】12件（R5）

生物多様性の保全

生物多様性保全のための取組み

- ・生物多様性の保全に寄与する「ツバメ」に親しみ地域農業への理解を深めてもらうため、ツバメの実態調査や学習会を継続して実施



【調査員】田野小学校6年生
【協力】日本野鳥の会宮崎県支部
【学習会の実施回数】2回（R5）

地域振興、情報発信

SNSや各種イベントで地域の魅力を発信

- ・X（旧Twitter）やInstagramなどSNSを開設
- ・SNSキャンペーンの実施
- ・地域のお祭りや宮崎ブーゲンシアで農産物の販売や大根やぐらの設置
- ・大根やぐらライトアップの実施
- ・のぼりやポスターなどのPR資料作成



【イベントへの出席回数】6回（R3）→15回（R5）
【各種イベントへの延べ来場者数】14,710人（R3）→44,490人（R5）

次世代への継承

食育活動、農業学習会

- ・地域の高等学校や小学校で「お茶の淹れ方教室」や「ハジハリ漬け教室」などの食育活動の実施
- ・地域内外の学生や団体を対象に、地域農業についての学習会や農業体験の実施
- ・学校給食へのメニュー提供



【食育活動や農業学習会の開催数】3回（R3）→7回（R5）
【食育活動や農業学習会の延べ参加者数】107人（R3）→531人（R5）